

平成30年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)	
1	ICTの効果的な活用やアクティブ・ラーニング型授業の実践等、生徒の主体的な学びを目指した授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① 研究授業、公開授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ学習を取り入れた授業を実施する。	生徒による授業評価アンケートで、ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	総合評価【A】 生徒による授業評価アンケート結果での肯定的評価は77%	中間評価時より5.6ポイントアップした。授業及びICTについては、より生徒の学力向上に繋がるよう、工夫・改善を図りたい。
			生徒による授業評価アンケートで、授業を通じて学力がついてきているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	総合評価【B】 生徒による授業評価アンケート結果での肯定的評価は80%	B評価(80%以上)を達成した。生徒の進路実現を達成するためには、授業時だけでなく、充実した家庭学習を前提とした授業展開が求められる。生徒の主体性を喚起するためにも、AL型授業の実践などに取り組みたい。
	② 「総合的な学習の時間(西高SDGs)」の活動を通して主体的・探究的・対話的に学び活動する態度を養う。	生徒によるアンケートで、「主体的・探究的・対話的に活動できるようになった」とする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	総合評価【A】 生徒によるアンケート結果での肯定的評価は96%	予想以上の高い評価であった。自己評価による甘さはあると思うが、取組そのものの意味は十分にあったと思う。この結果に満足せず、来年度、さらに改善を加えていきたい。	
	③ 家庭学習時間調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで学習時間を確保させる。	家庭学習時間が学年+1時間に達している生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	総合評価【D】 目標達成生徒割合は23%	平均値では前年比プラス2%弱であった。全体として長期休業の後に時間が少なくなる傾向が見られる。休業中の学習時間の確保や学習習慣の定着が課題である。	
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し方策を検討することで、学力向上に結び付ける。	1月の校外模試3教科型偏差値52以上が A 120名以上 B 90名以上 C 70名以上 D 70名未満 10月の校外記述模試偏差値50以上が A 120名以上 B 100名以上 C 80名以上 D 80名未満 11月のマーク模試総合偏差値52以上が A 120名以上 B 100名以上 C 80名以上 D 80名未満	総合評価【B】 1年：91名 2年：106名 総合評価【D】 3年 43名 3年 23名	1年においては、新テストを見据えた出題に対し、十分に対応できていない面もある。今後新テストの分析を授業、定期試験に反映させていく必要がある。 模試ごとに、各教科で分析し、対策をとっているが、受験生が絞り込まれてくる3年において成績を維持、向上させることが難しくなっている。補習、個別添削をさらに工夫していくことはもちろんだが、1年の初期指導、進路行事や探究活動を通しての進路意識の涵養など、低学年における指導が重要性を増している。	
⑤ 進路学習を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	① 国公立大学合格者数(過年度卒含む)が ② 金沢大学、富山大学合わせた合格者が A ①100名以上、かつ②30名以上 B ①60名以上、または②25名以上 C ①50名以上、または②20名以上 D ①50名未満、かつ②20名未満	総合評価【B】 ①62名 ②15名(金沢大学4名、富山大学11名)	国公立大学合格者数、推薦14名、前期36名、中期6名、後期6名で合計62名であった。大学の定員の厳格化等による影響もあって、前期の合格発表までで合格者が50名と厳しい状況であったが、多くの生徒が中・後期まで粘り強く受験し、合格者数を増やすことができた。		
学校関係者評価委員会の評価		・「生徒の主体的な学びを目指す」「進路実現につなげる」という観点から、将来を意識させる取組を早期から行うことで、学びのモチベーションを高めて欲しい			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・1年生における「総合的な探究の時間」での探究学習を進路に結びつける取組として位置づけ、3年次まで繋がる「探究」による進路構築モデルの実践を行う。			
2	組織的な生徒指導を通して、規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 学校生活の中で時間厳守の意識を培い、社会人として求められる行動力の定着を図る。	遅刻3回8時登校の指導を受けた生徒の全学年年間合計が A 20名以内 B 30名以内 C 40名以内 D 41名以上	総合評価【D】 遅刻3回以上の指導を受けた生徒の全学年年間合計60名	昨年度末の35名と比べると指導を受けた生徒数は増加した。バスや自転車で通学する生徒と送迎によって登校する生徒が混在し、同じ遅刻でも状況が異なる。指導内容と方法を再検討する必要がある。
		② 自転車乗車マナーの向上を目指し、交通ルール遵守の精神を忘れず、自らの命や周囲の安全に配慮できる判断力と社会性を身に付ける。	自転車乗車違反指導件数が年間で A 30件以下 B 40件以下 C 50件以下 D 51件以上	総合評価【B】 35件	昨年度末と同じ35件であった。生徒の安全を第一に考え、機会を捉えて自転車マナー指導について、計画的に指導したい。

	③	いじめは決して許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。早期発見に取り組むと共に、迅速な対応を確実に行う。	学校のいじめに関する取組に対する肯定的評価が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	総合評価【D】 生徒による学校評価アンケート結果での肯定的評価は65%	前期より6ポイントアップし、2回のいじめに関するアンケートでも「いじめられている」という生徒はいなかった。しかしながら、アンケート結果としては満足できるものではなく、普段から安心して学校生活を送ることができるように、あらゆる場を通して生徒へ伝えていく必要がある。
	④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	視力と歯の要受診者の受診率平均が A 60%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	総合評価【D】 視力 25% 歯 12%	年間を通して、保健だよりや個別指導にて受診指導を実施したが、生徒の行動変容につながらず低い結果となった。原因を分析し、受診率向上に向けて努めたい。
学校関係者評価委員会の評価		・いじめに対する取組に対し、生徒の肯定的評価が低いことが気になる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・普段から安心安全の学校となるように全職員で組織的に対応する。生徒が気軽に悩みを相談できるように、具体的な相談がなくてもカウンセラーと面識を持つ機会を設ける			
3	①	文武両道の実践のもと、部活動の更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	部活動加入率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	総合評価【B】 12月末現在94%	新入大会後、2年生の退部者が若干名出てきた。昨年に比べ退部者人数は減少したが、部活動の意義と継続する大切さを教師側がしっかりと生徒に伝え続ける姿勢が必要である。
	②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下	文化部の各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	総合評価【C】 総合評価【B】 総合21位 文化部賞状18枚 県高校総体総合成績については昨年度の15位から21位へ後退した。男子団体競技の成績が振るわず、ポイントが例年に比べ低下した。今後は各部でさらなる効果的な部活動指導の継続に努めていく。枚数はA評価に届いていないが、前年度よりも表彰状の枚数も増えたことや全国大会出場を果たしていることは評価できる。
学校関係者評価委員会の評価		・部活動については、学習との両立が図れるように指導して欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・計画的な活動により見通しを持った指導を行うとともに、過度な負担とならないように適正化に努める。			
4	①	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	総合評価【D】 保護者による学校評価アンケート結果での肯定的評価は74%	昨年度同期と比べて4%、前期よりも3%ダウンした。昨年度の反省を受け、ホームページの更新に年度当初から行ってきた。次年度はより積極的に情報発信に努めたい。
			P T A総会、教育ウィーク時の保護者の来校延べ人数昨年度実績比の増加率が A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	総合評価【D】 昨年度実績増加率は-20%	総会は昨年度とほぼ同数の来校者があったが、教育ウィーク授業公開は昨年とほぼ同じであったもののP T A講演会では昨年より50人ほど少なかった。午前にするなどの時間的な見直しと講演会の内容や講演会という形式そのものの見直しを考えて改善していく必要がある。
	②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒1人あたり、12月末まで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	総合評価【D】 12月末までの貸し出し冊数は生徒1人あたり1.88冊	12月の貸出しキャンペーンの期間は、昨年よりは盛況であったが、中間評価時点での減少傾向に歯止めをかけられなかった。授業での活用が増えなかった。次年度に向けて、授業で取り扱う予定の書籍を今年度中に調査する、また、朝読書の時間に読む本は学校図書館の本を利活用する等の取り組みをする。
	③	ごみの分別、節電や紙の3R活動を通して、エコ活動への意識関心を高める。	『いしかわ家庭環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、その回答シートの回収率が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	総合評価【C】 回答シート回収率は58%	事前に環境委員による説明と呼びかけをクラスで行い、前年度よりも回収率は1%増となったが、エコ活動に対する意識向上のための方策を見直す必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・学校からの情報提供が保護者や生徒にうまく伝わるよう工夫してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・学校ホームページの更新に加えて、メール配信による情報提供に努める。			
5	①	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、業務改善に向けた学校マネジメントを推進するために具体的な取り組みを行う。	具体的な取り組みを実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 20%未満	総合評価【B】 職員へのアンケート結果での肯定的評価は62%	職員アンケートによれば、肯定的評価は19.3%アップした。また、勤務時間記録表では、4月から7月までの時間外月平均が、昨年度同期と比べて3.3時間、8月から12月では5.9時間少なくなった。定例の職員会議等で「勤務の振り返りの必要性」や「生産性を高める働き方」等について伝えてきたことが一つの要因として考えられる。今後は仕事の活力を失わないようしながら、社会の変化に合わせて、数値だけではなく、業務の質的な向上とワークライフバランスに繋がるように、業務改善に取り組みたい。
			学校関係者評価委員会の評価 ・働き方改革を見据え、業務の効率化とともに質を高めてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・限られた時間で効果的・効率的な業務を行えるように、校務分掌の見直しや授業改善等により業務改善に努める。			